

街頭もちつきについて学びました



12月8日（月）、砂川小学校4年生を対象に砂川市指定無形民俗文化財である「街頭もちつき」について学ぶ授業が行われました。当日は、砂川もちつき保存会事務局長の佐々木薰さんを講師に迎え、街頭もちつきの歴史や現在の活動について講話がありました。

街頭もちつきは、明治32年12月、四国の阿波地方（現在の徳島県）から砂川に出稼ぎに来ていた木場職人が、年末に故郷をしのんで無償で巡回もちつきを行ったことに始まります。戦争などにより一時中断された時期もありましたが、現在では砂川市にとって欠かせない年末の風物詩として、市民に親しまれています。

授業の中で子どもたちから「もちつきで杵や臼が壊れることはありますか？」という質問があり、佐々木さんからは「杵が臼に当たって壊れることもあるが、修復しながら大切に使い続けている」と教えてもらいました。

今回の授業は、子どもたちにとって、130年近く受け継がれてきた砂川市の伝統文化への理解を深める貴重な機会となりました。

12月13日（土）、地域交流センターゆうで実施された街頭もちつきでは、佐々木さんと授業を受けた子どもたちが再会し、つきたての餅を両手に持って笑顔を見せていました。



砂川のスター輝いています!

12月15日（月）、「第30回MOA美術館砂川・歌志内広域児童作品展」において、書写の部で佐々木堂真さん（豊沼小5年）が市長賞を受賞し、市長室を訪れました。



12月15日（月）、「第75回社会を明るくする運動作文コンテスト」において、作田悠莉さん（砂中2年）、羽川莉子さん（砂中3年）が優秀賞を受賞し、砂川中学校で表彰状の伝達が行われました。